

平成 29 年 11 月 日
愛 媛 大 学

難病指定「ANCA 関連血管炎」の病状や予後の予測 を可能にするバイオマーカーを発見

愛媛大学大学院医学系研究科の長谷川均(はせがわ ひとし)特任教授及び先端研究・学術推進機構プロテオサイエンスセンターの武森信暁(たけもり のぶあき)講師らの研究グループが、難病の一種である「ANCA関連血管炎」の病状を正確に診断するための、有望なバイオマーカー(血中タンパク質成分)の同定に成功しました。

本研究グループは、日本中から集められた血液サンプルを分析し、9種類のバイオマーカーの血中濃度が血管炎の活動や臓器病変を診断する上でとても有望な情報となりうる事を突き止めました。この成果により、ANCA関連血管炎の病状や予後の予測が可能となり、治療の向上に繋がる事が期待されます。

本研究は、厚生労働省研究事業および国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の支援を受けて行われたものです。

※ ANCA 関連血管炎とは、難病に指定されている膠原病の一種で、血管に炎症が起きてしまい、そのために組織や臓器が侵されてしまう病気です。

記

掲載誌 : Arthritis Research & Therapy

論文題目 : Targeted proteomics reveals promising biomarkers of disease activity and organ involvement in antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis

(和文)ターゲットプロテオミクスによる ANCA 関連血管炎の活動性や臓器病変を評価する有望なバイオマーカーの同定

研究責任者: 愛媛大学大学院医学系研究科 特任教授 長谷川 均

愛媛大学先端研究・学術推進機構プロテオサイエンスセンター 講師 武森 信暁

他(別紙2参照)

本件に関する問い合わせ先

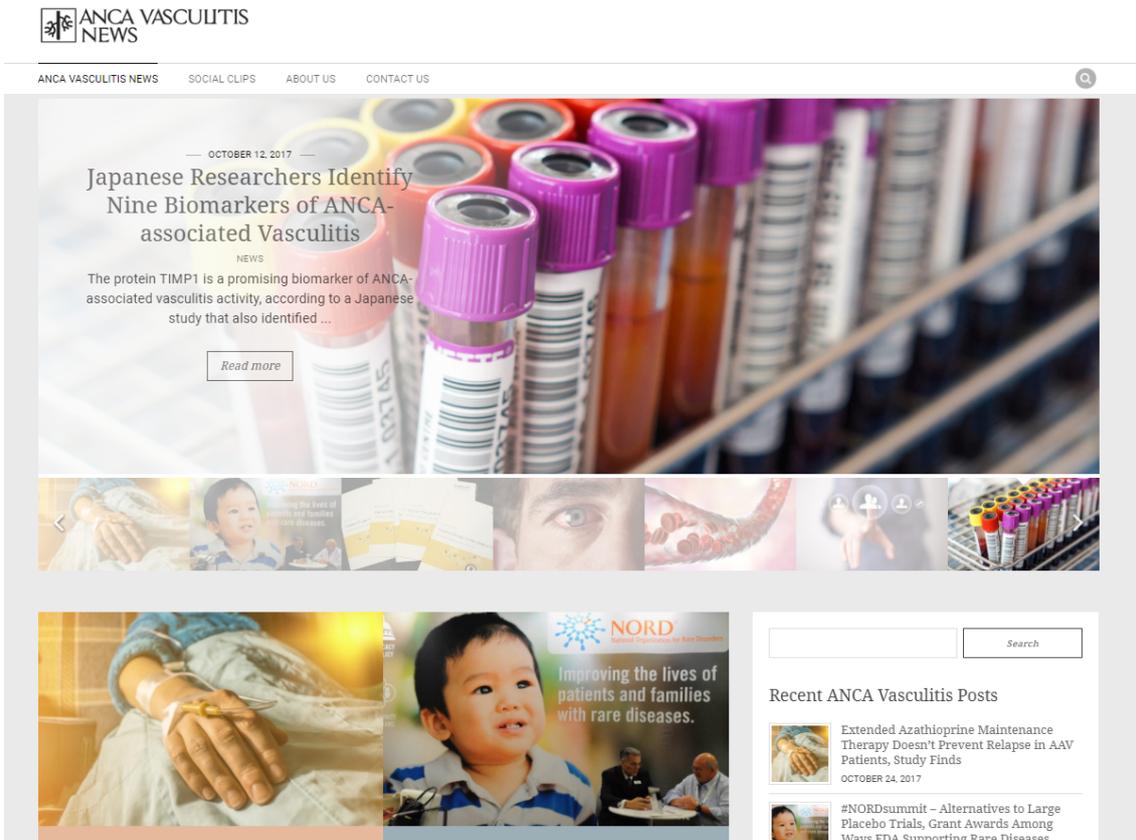
愛媛大学大学院医学系研究科

血液・免疫・感染症内科学 長谷川 均

TEL: 089-960-5296

資料 3枚(本紙を含む)

難病の一種である ANCA 関連血管炎の活動性や臓器病変の診断を可能にするバイオマーカーを発見



膠原病の一種で、難病に指定されている「ANCA 関連血管炎」は、血管に炎症が起きてしまい、そのために組織や臓器が侵されてしまう病気です。また ANCA 関連血管炎は再発しやすく、治療方針を決めるためには、病気の活動性を正確に評価することが重要です。さらに血管炎は様々な臓器に影響を及ぼすため、治療の際には病気の原因となっている臓器をいち早く特定することが必要です。

今回、愛媛大学医学部医学系研究科の長谷川均特任教授（血液・免疫・感染症内科学）、愛媛大学プロテオサイエンスセンターの武森信暁講師（プロテオミクス研究部門）らの研究グループは、ANCA 関連血管炎の病状を正確に診断するために有望な血中タンパク質成分（バイオマーカー）を同定することに成功しました。

この研究は、愛媛大学プロテオサイエンスセンターの保有する最先端の質量分析装置を使用して、一滴の血液サンプルに含まれる微量なタンパク質成分の濃度を正確に計測することにより実現しました。研究グループが、厚生労働省研究事業「難治性血管炎に関する調査研究班」により日本中から集められた貴重な血液サンプルを分析した結果、9種類のバイオマーカーの血中濃度が血管炎の活動性や臓器病変を診断する上でとても有望な情報となることを明らかにしました。この成果により、ANCA 関連血管炎の病状や予後の予測が可能になり、治療の向上につながることを期待されます。

本研究は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の支援を受けて行われたものであり、その成果は2017年9月29日に Arthritis Research & Therapy 誌にてオンライン刊行されました。また本成果は、米国デジタル出版サービス BioNewsServices 社の提供する Ancavasculitis News (2017年10月12日付) に取り上げられました。